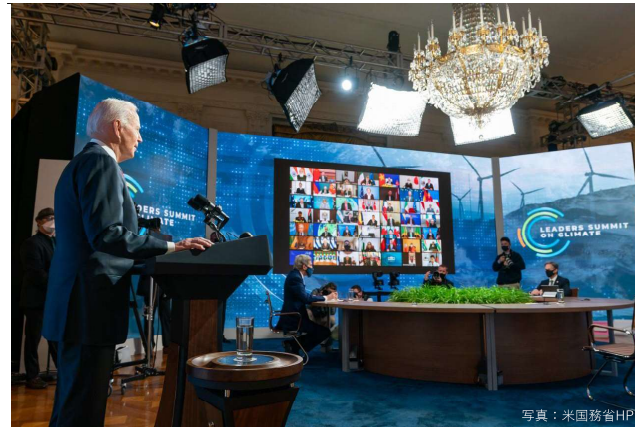


# 海自の気候安全保障上の 取り組みの方向性

1等海佐 佐瀬 智之  
海上自衛隊幹部学校戦略研究室長



写真：米国務省HP

## 令和3年版 防衛白書 日本の防衛

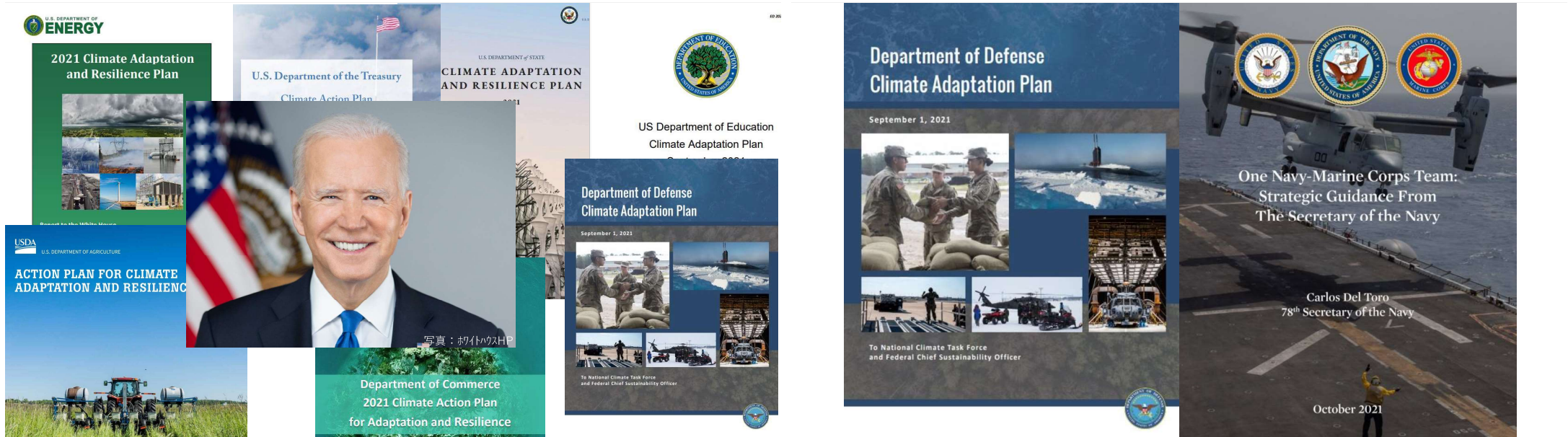


写真：時事通信

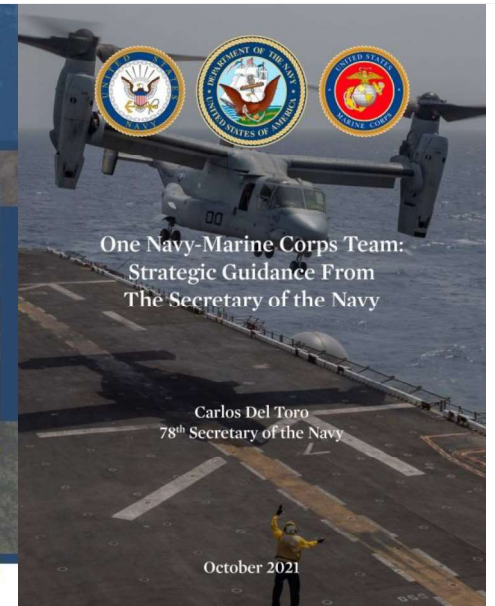
防衛白書トップ > 第1節 わが国を取り巻く安全保障環境 > 第3章 宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向と国際社会の課題 > 第8節 気候変動が安全

### 第8節 気候変動が安全保障環境や軍に与える影響

2013年9月、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、大気と海洋の温暖化、氷の融解、海面水位の上昇、温室効果ガス濃度の増加の観測により、気候システムの温暖化には疑う余地がないとする報告を公表した。こうした気候変動の影響は、地域的に一様ではなく、また気象や環境の分野にとどまらず、社会や経済を含む多岐にわたる分野に及ぶものと考えられており、2016年11月には温室効果ガス排出削減などのための新たな国際枠組みであるパリ協定が発効している。こうした中、国連安全保障理事会は、近年、アフリカにおける気候変動化ミッションや支援ミッションを中心とした10を超える決議において、水不足、干ばつ、砂漠化、土壌の劣化、食料不足といった例をあげ、気候変動による安全保障への負の影響を指摘するなど、気候変動問題を安全保障上の実体的な課題としてより積極的に取り扱う姿勢を見せている<sup>1</sup>。



写真：柳井のHP



One Navy-Marine Corps Team:  
Strategic Guidance From  
The Secretary of the Navy

Carlos Del Toro  
78<sup>th</sup> Secretary of the Navy

October 2021

## 米海軍の気候変動対策取り組み（米海軍長官戦略ガイダンス）

装備、訓練、作戦等のあらゆる面で気候要素を十分考慮

持続性のある燃料の開発（代替エネルギー、自然保護、二酸化炭素排出の削減、化石燃料への依存の低減）

荒天や資源不足による危急の事態に備えるために同盟国及びパートナー国との協力を強化

抗たん性のある施設、装備の開発、取得

写真：US NAVY

## 米海軍の取り組みを読み替えると

気候変動が海軍の任務遂行能力に与える影響の局限（気候変動への適合）

装備、訓練、作戦等のあらゆる面で機構要素を十分考慮

抗たん性のある施設、装備の開発、取得

気候変動により生起する事態への備え（気候変動後の世界への準備）

荒天や資源不足による危急の事態に備えるために同盟国及びパートナー国との協力を強化

CO2の排出量削減（気候変動防止）

装備、訓練、作戦等のあらゆる面で機構要素を十分考慮

持続性のある燃料の開発（代替エネルギー、自然保護、二酸化炭素排出の削減、化石燃料への依存の低減）

写真：US NAVY

## 海自の取り組みの方向性

気候変動が海軍の任務遂行能力に与える影響の局限（気候変動への適合）

気候変動により生起する事態への備え（気候変動後の世界への準備）

CO2の排出量削減（気候変動防止）

写真：海上自衛隊HP

ご清聴ありがとうございました。

写真：海上自衛隊HP